PRESS RELEASE

報道関係各位

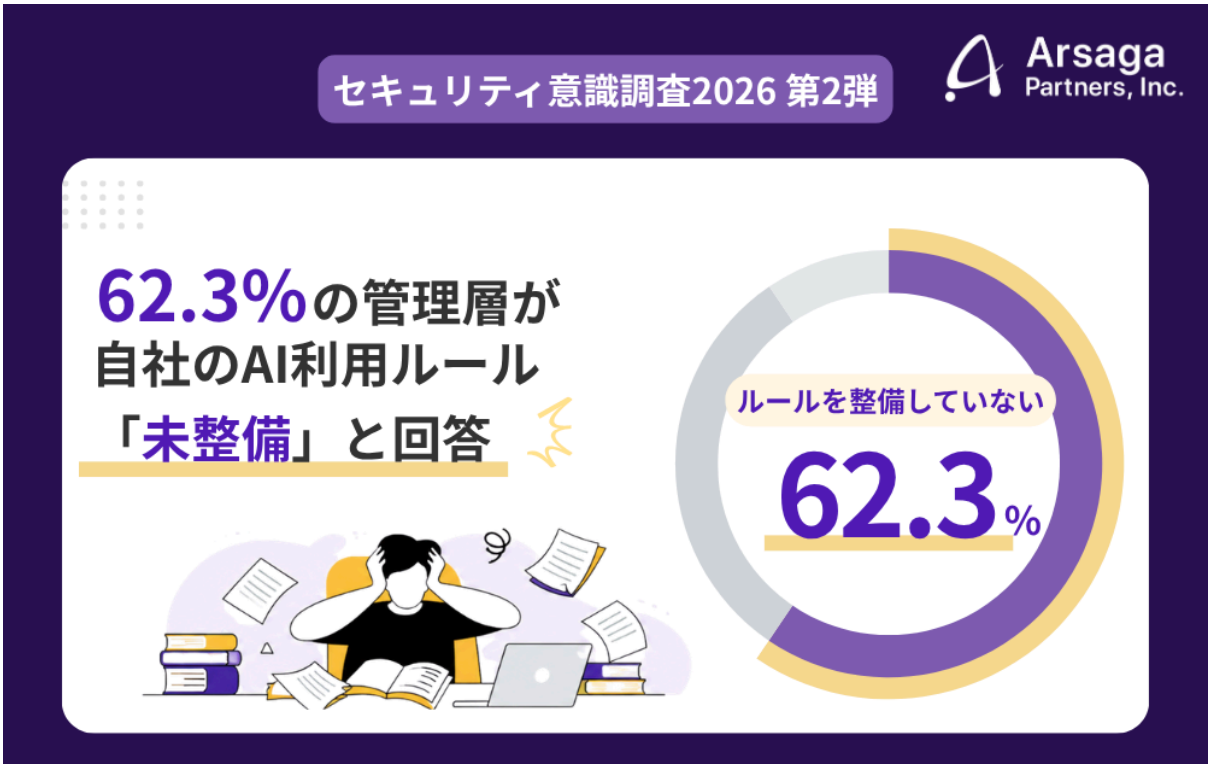
2026年11月24日
アルサーガパートナーズ株式会社

【セキュリティ意識調査2026】
62.3%の管理層が自社のAI利用ルール「未整備」と回答。
整備済み・整備意向ありでも46.4%は
「ルールが現場で守られているか」を確認・把握する手段がない

～急速なAIの普及の中で浮き彫りになる「ルール整備」と「遵守の把握」という二重の壁～

企業のDXを促進するアルサーガパートナーズ株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役CEO兼CTO：小俣泰明、以下「アルサーガパートナーズ」）は、全国のデスクワークに従事するビジネスパーソン328名を対象に、業務における生成AIの利用実態とセキュリティリスクに関する調査を実施しました。

本調査では、企業における生成AI利用ルール・ガイドラインの整備状況から、現場での運用まで、AIガバナンス（*1）の実態について分析します。調査結果からは、生成AIの業務利用が広がる一方、約6割の管理層が「AI利用ルールの整備が追いついていない」と回答していることがわかりました。さらに、AI利用ルールを整備・運用済み、または整備意向のある管理層の半数近くが、「ルールが現場で守られているか」を確認・把握する手段がないことも明らかになりました。企業は今、「ルール整備の遅れ」と「遵守実態の把握不足」という二重の壁に直面しています。



アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL:https://www.arsaga.jp

なお、本リリースは、ビジネスパーソンの生成AI活用とセキュリティリスクの実態を多角的に分析する、全4回の調査プロジェクトの第2弾です。
他の調査リリースはこちらよりご覧ください。

第1弾：（2026年11月公開）【セキュリティ意識調査2026】生成AI普及の裏で社員の59.8%が「どのAIツールが会社で許可されているか」を把握せず。さらに、管理層の55.0%がリスク評価「未対応」と回答

*1 AIガバナンス：人工知能システムがそのライフサイクル全体を通じて責任ある方法で開発、導入、運用されることを保証するために組織が用いる、フレームワーク、ポリシー、プロセスの体系

■ 調査結果サマリ

調査結果サマリ

01	約6割の管理層は自社のAI利用ルール「未整備」と回答
02	未整備の最大の壁は「リソース不足」
03	「整備・運用済み」のうち、9割弱が現場への「浸透」を実感
04	ルール整備済み・意向あり管理層の半数近くが、「ルールが守られているか確認手段がない」と回答
05	セキュリティ管理ツールの未導入は4割弱

■ 調査概要

- 調査機関：アルサーガパートナーズ
- 調査方法：外部リサーチサービスを利用したインターネットによるアンケート調査
- 調査期間：2026年8月5日～8月7日
- 調査対象：デスクワークに従事する全国のビジネスパーソン
- 有効回答：328名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。
※複数回答の設問については各項目の合計が100%を超える場合があります。
※本調査における「管理層」は、経営者・役員、情シス・IT担当、セキュリティ専門職、DX推進・IT企画、および部長・課長クラス等の管理職を指します。

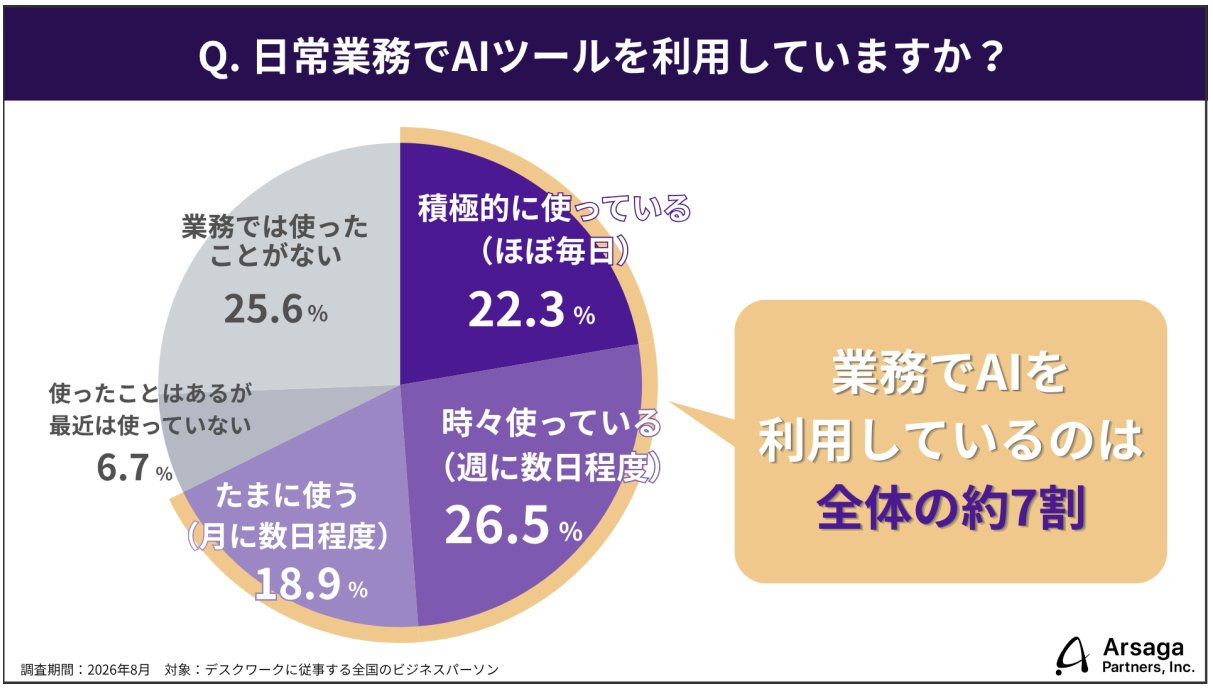
アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp

1：業務における生成AIの普及状況

ビジネスシーンにおいて生成AIの利活用が急速に進む中、企業現場ではどの程度定着しているのでしょうか。直近1年の利用変化とともに最新の実態を紐解きます。

●日常業務でのAI利用者は約7割

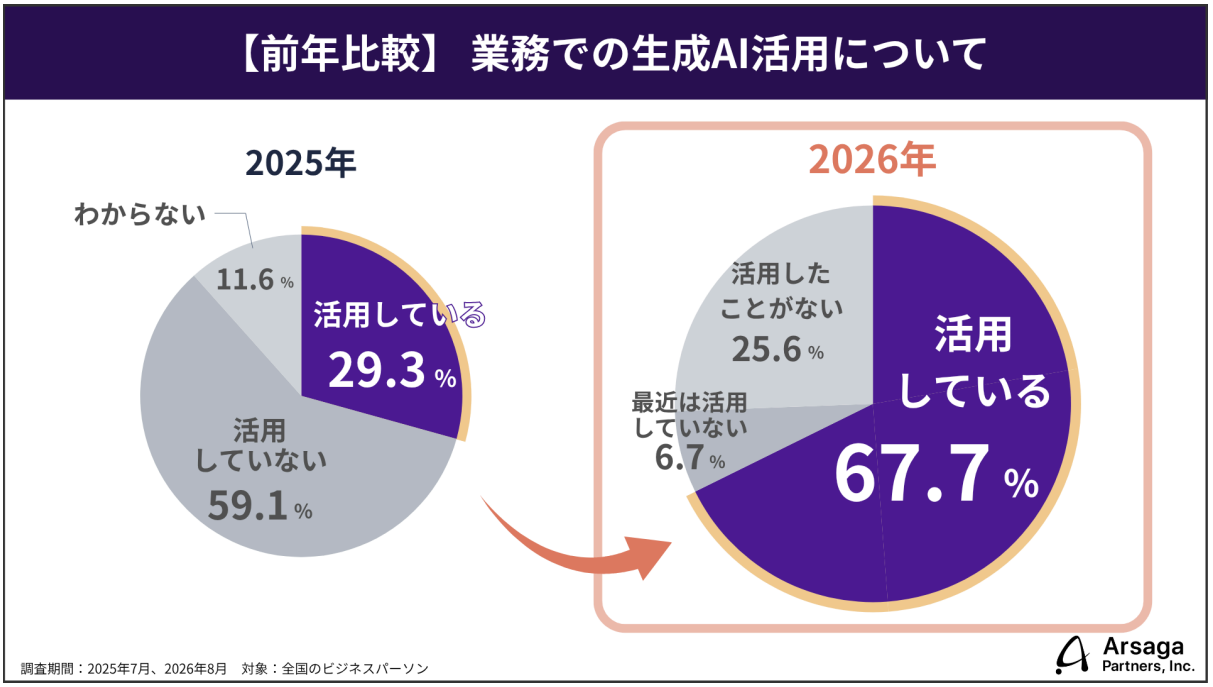
業務でのAIツールの利用頻度について尋ねたところ、「積極的に使っている（ほぼ毎日）」が22.3%、「時々使っている（週に数日程度）」が26.5%、「たまに使う（月に数日程度）」が18.9%となり、これらを合わせた業務利用者は全体の約**7**割（**67.7%**）となりました。



●AI利用率は前年から2倍以上に

前年（2025年7月）に当社で行った調査では、「業務で生成AIを活用している」と回答した人は29.3%にとどまっていましたが、この1年で利用率は29.3%から67.7%へと約2.3倍に拡大しています。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp



▼2025年の調査結果はこちら:
【業界別・生成AI活用実態調査】業務での活用率は全体で3割未満。最も活用率が高いのは「情報通信」、次いで「小売」
調査期間:2025年7月16日～7月24日
有効回答:9,244名
※前年（2025年）の調査はすべての職種を含む「全国のビジネスパーソン」を対象としており、本調査はよりPC作業の多い「デスクワーカー」を対象としているため、活用率が高く出やすい傾向があります。厳密な定点比較ではありませんが、参考値として比較・記載しています。

対象者はデスクワーカーに限定したものになりますが、この1年の変化からもビジネスシーンにおける生成AIの活用が広がり、日常業務に浸透しつつあることがうかがえます。

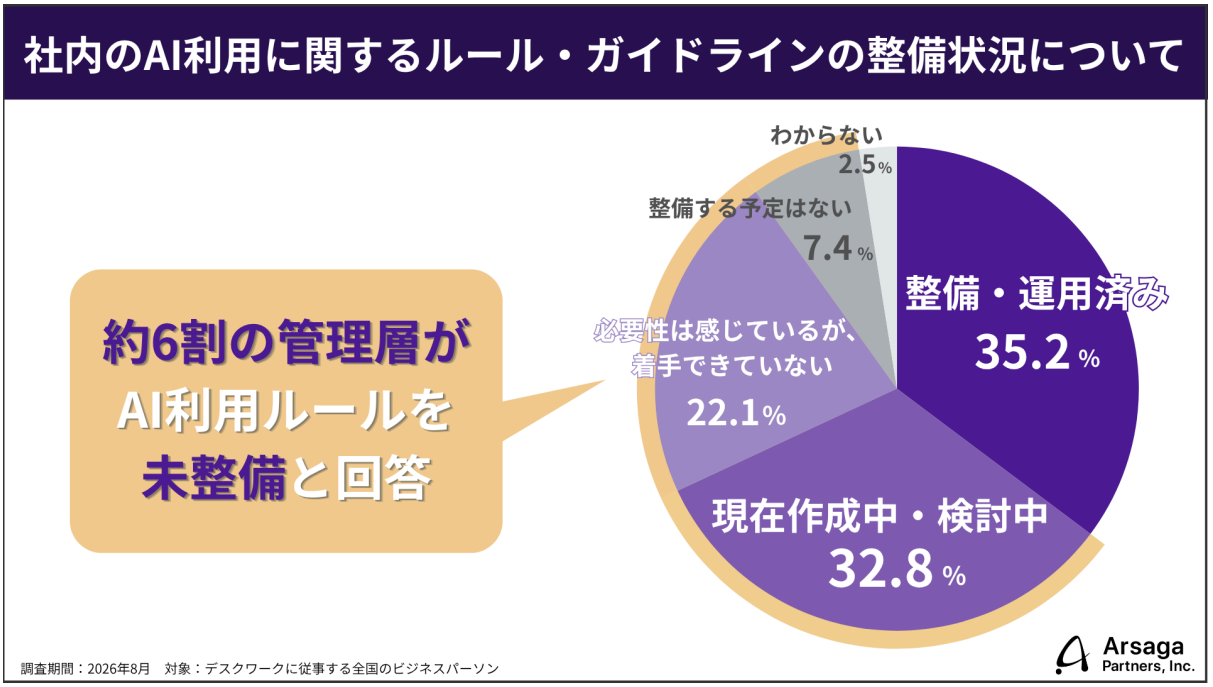
2:AI利用ルールの整備と浸透状況

生成AIの業務利用が急速に広がるなか、組織としてのガバナンス体制や安全な利用環境の整備は追いついているのでしょうか。本章では、ルール整備の現状と現場での浸透実態について分析します。

●約6割の管理層が自社のAI利用ルール「未整備」と回答

経営者を含む管理層に「社内のAI利用に関するルール・ガイドラインの整備状況」を尋ねたところ、「整備・運用済み」と答えた人は4割未満（35.2%）でした。一方で、「現在作成中・検討中（32.8%）」、「必要性は感じているが、着手できていない（22.1%）」、「整備する予定はない（7.4%）」を合わせた約**6**割（**62.3%**）で、**AI**利用ルールが未整備であることがわかりました。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp



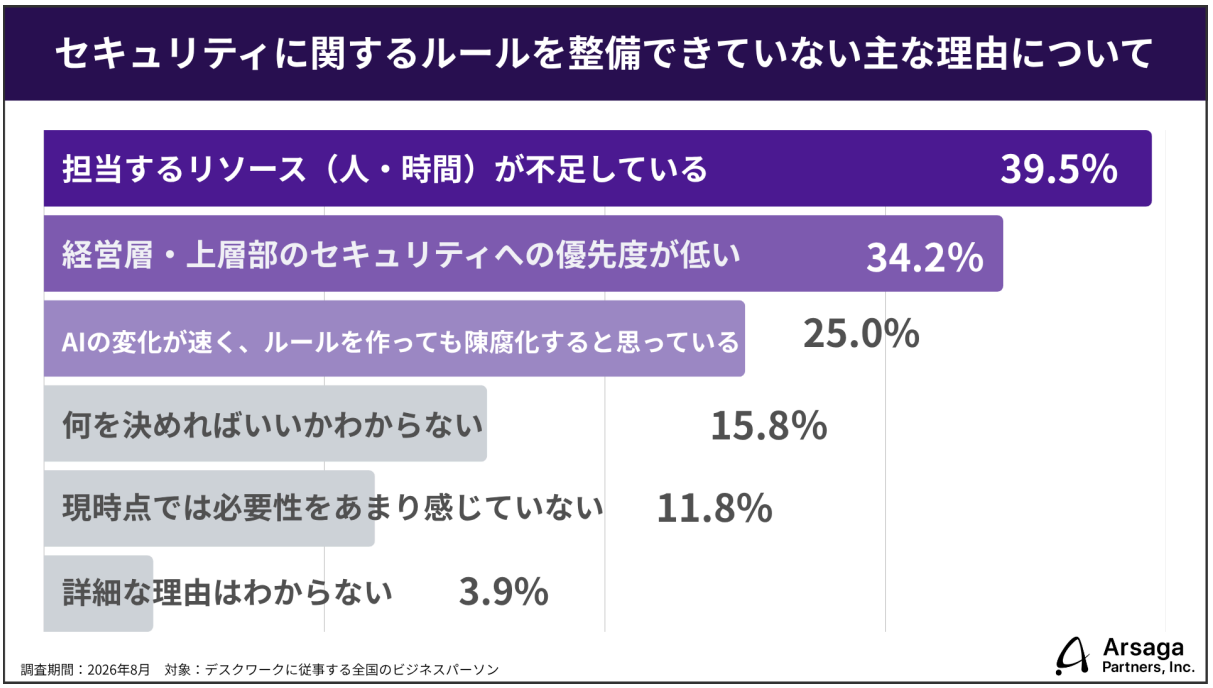
業務でのAI利用が広がる一方、AI利用ルールの整備は途上にある企業が多く、利用拡大に対して組織としてのルール整備が十分に進んでいない状況がうかがえます。利用範囲が広がるほど、社員ごとの判断に委ねられる場面も増えるため、情報管理やセキュリティ面でのリスクにつながる可能性があります。

●ルール整備の最大の壁は「リソース不足」

「セキュリティに関するルールを整備できていない主な理由」について聞いたところ、最も多かったのは「担当するリソース（人・時間）が不足している（**39.5%**）」でした。次いで「経営層・上層部のセキュリティへの優先度が低い（34.2%）」、「AIの変化が速く、ルールを作っても陳腐化すると思っ

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp

ている（25.0%）」と続きました。

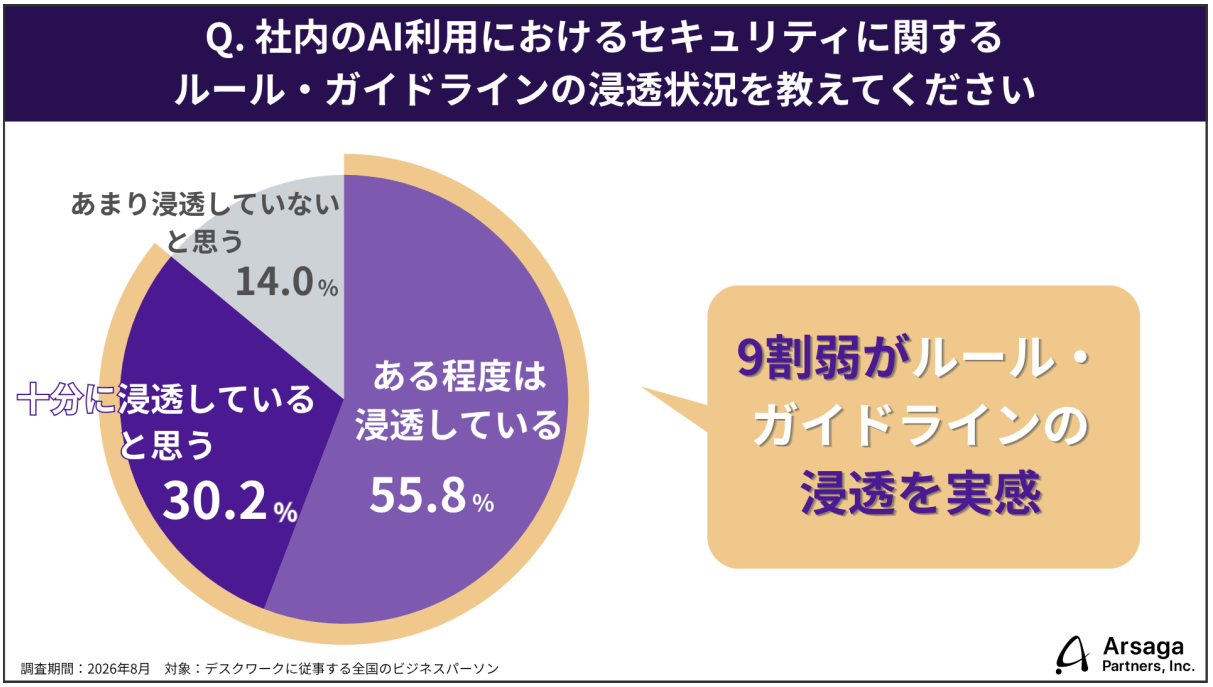


AI利用ルールの整備を進めたくても、担当する人員や時間が不足していることで、具体的な対応に着手できないというジレンマがうかがえます。また、経営層・上層部のセキュリティへの優先度が低い場合、現場でルール整備の必要性が認識されていても、組織全体としての取り組みにつながりにくい可能性も考えられます。

●ルール整備済みと回答した管理層の9割弱が、現場への「浸透」を実感

一方で、ルールを「整備・運用済み」と回答した管理層に対し、「社内のAI利用におけるセキュリティに関するルール・ガイドラインの浸透状況」を尋ねたところ、「十分に浸透していると思う（30.2%）」と「ある程度は浸透している（55.8%）」を合わせて**9**割弱（**86.0%**）が、現場へのルールの浸透を実感していることがわかりました。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp



AI利用ルールを「整備・運用済み」と回答した人は4割未満となっています。一方、整備を終えた企業の管理層は、ルール設定のみにとどまらず、現場に一定程度受け入れられていると捉えていることがうかがえます。

3：AI利用ルールの整備・運用における課題

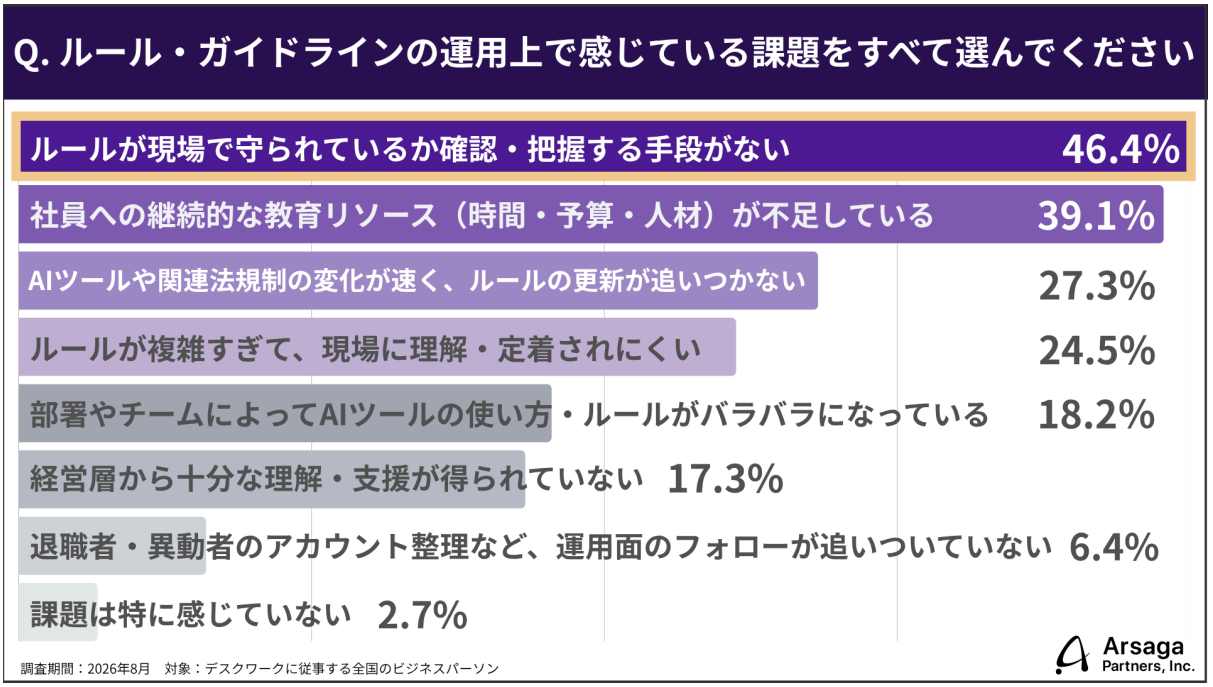
AI利用ルールの整備状況は企業によって異なるものの、ルールの実効性を確保するためには、整備から運用までを見据えた取り組みが重要です。ここでは、AI利用ルールの整備・運用に関する課題に着目します。

●ルール整備済み・整備意向ありの管理層のうち、半数近くが「ルールが守られているか確認する手段がない」と回答

AI利用ルールを「整備・運用済み」「現在作成中・検討中」「必要性は感じているが、着手できていない」と回答した管理層に運用上の課題を尋ねたところ、半数近く（**46.4%**）が「ルールが現場で守られているか確認・把握する手段がない」と回答し、遵守状況の把握が運用上の課題となっていることが浮かび上がりました。

次いで、「社員への継続的な教育リソース（時間・予算・人材）が不足している（39.1%）」や、「AIツールや関連法規制の変化が速く、ルールの更新が追いつかない（27.3%）」が続き、課題はモニタリング手段の不足だけでなく多岐にわたっています。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp

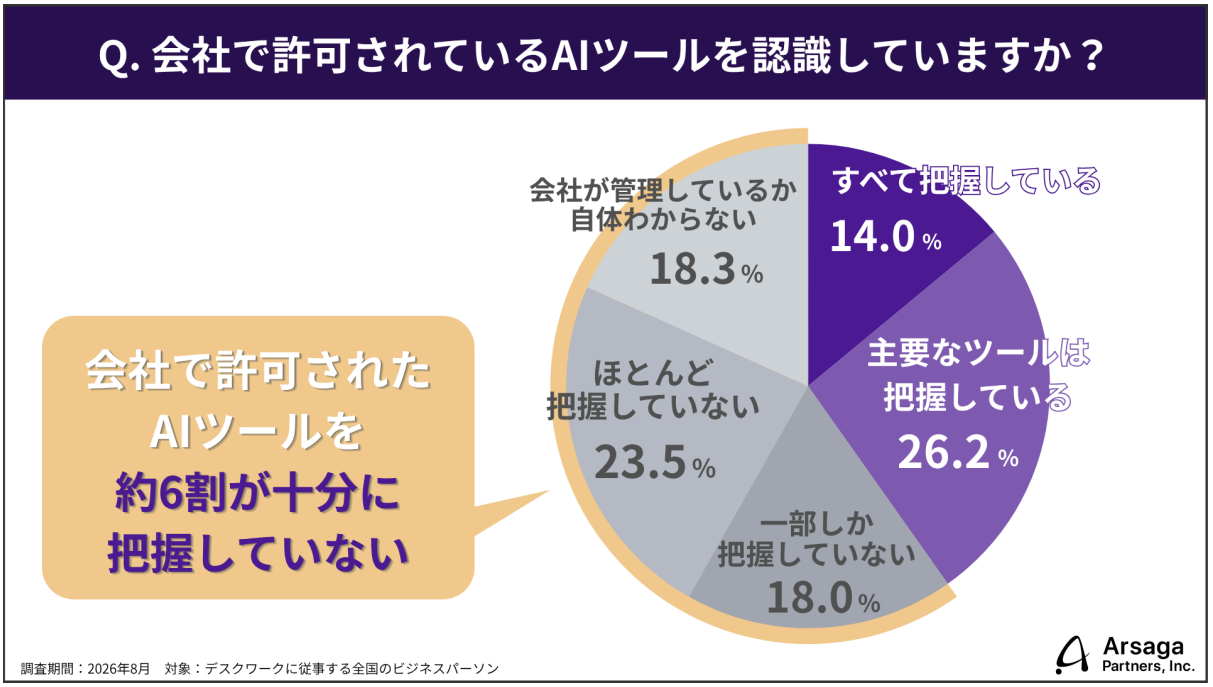


これらの課題は、ルールを整備するだけでは現場での遵守を担保することが難しく、整備の段階から実効性のある運用を見据える必要があることを示唆しています。遵守状況を確認する仕組みの構築や継続的な社員教育、ルールの見直しまで含めた取り組みがなければ、ルールが形骸化してしまうリスクが懸念されます。

●約6割の社員が「どのAIツールが会社で許可されているか」を十分に把握していない

会社が利用を許可・管理しているAIツールについて認識しているのかを聞いたところ、「一部しか把握していない（18.0%）」、「ほとんど把握していない（23.5%）」、「会社がAIツールを許可・管理しているかどうか自体わからない（18.3%）」を合わせ、全体の約**6**割（**59.8%**）もの回答者が会社で許可されている**AI**ツールを十分に把握していないことがわかりました。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp



「どのAIツールを使ってよいのか」という具体的な利用環境についても、社員側の認識が十分ではない実態がうかがえます。こうした認識のずれは、会社が把握していないAIツールの利用、いわゆる「シャドーAI（*2）」につながる可能性もあります。

*2 シャドーAI：企業が利用を把握・管理していないAIツールやサービスが、社員によって業務で利用されている状態

4：セキュリティ管理ツールの導入状況と導入製品

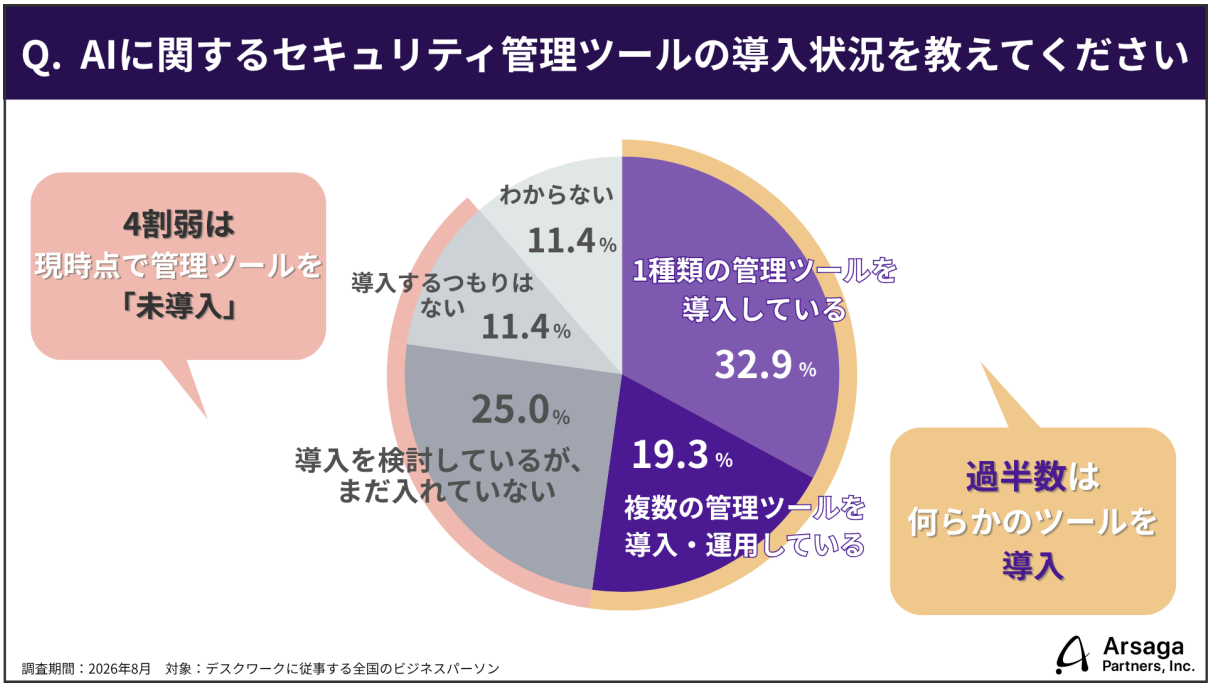
ここまで、AI利用ルールの整備状況や、策定後の運用における課題を見てきました。続いて、セキュリティ管理ツールの導入状況と、実際に利用されている主な製品について分析します。

●4割弱の管理層は、自社でセキュリティ管理ツールを「未導入」と回答

AIに関するセキュリティ管理ツールの導入状況について尋ねたところ、「複数の管理ツールを導入・運用している（19.3%）」と「1種類の管理ツールを導入している（32.9%）」を合わせ、過半数（52.2%）が、自社で何らかの管理ツールを導入していると回答しました。

一方、「導入を検討しているがまだ入れていない（25.0%）」、「導入するつもりはない（11.4%）」を合わせると、**4割弱（36.4%）**は、現時点で管理ツールを導入していないことがわかりました。また、導入状況が「わからない（11.4%）」という回答もあります。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp



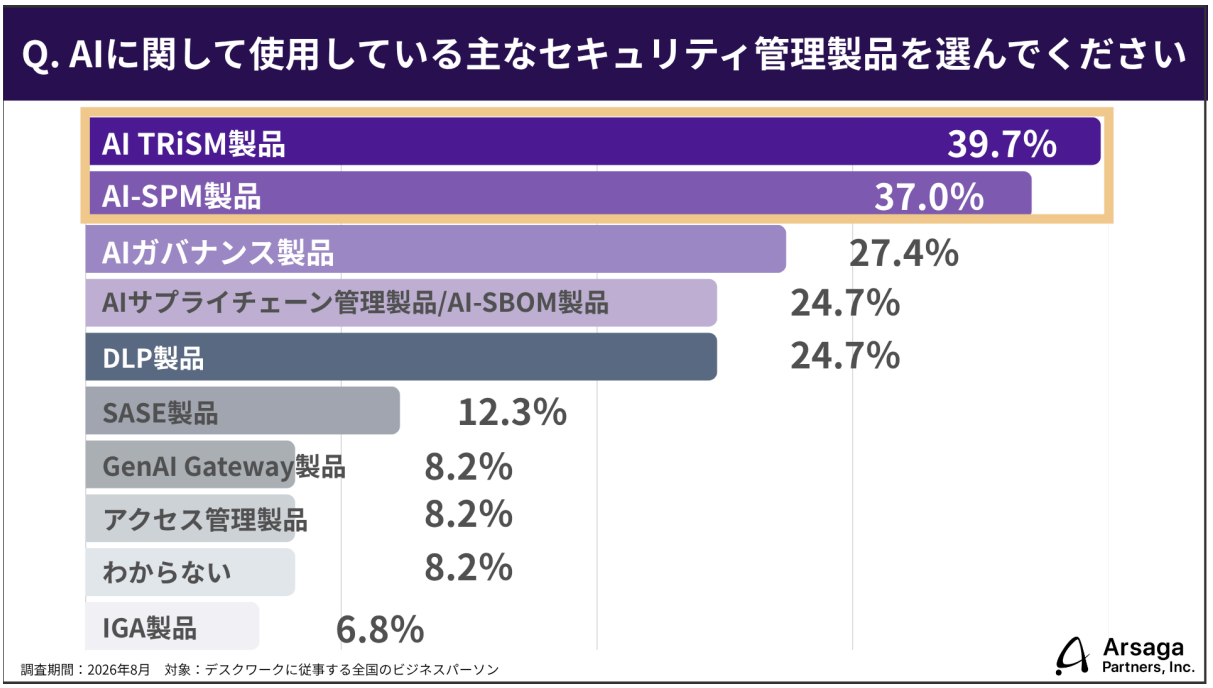
セキュリティ管理ツールの導入が一定程度進む一方で、4割弱は未導入であり、企業間の対応に差が見られます。特に、「導入を検討しながらも足踏みしている層」が一定数存在することから、導入に向けた具体的な課題を整理し、実行へと踏み出すための後押しが求められます。

●導入製品は「AI TRiSM製品」と「AI-SPM製品」が上位に

一方、セキュリティ管理ツールを導入済みと回答した管理層に、実際に使用している製品について聞いたところ、「**AI TRiSM**製品」が約**4**割（**39.7%**）で最多となり、**2**位は「**AI-SPM**製品（**37.0%**）」でした。そのほか、「AIガバナンス製品（27.4%）」、「AIサプライチェーン管理/AI-SBOM製品（

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp

24.7%）」、「DLP製品（24.7%）」なども挙げられ、導入されている製品は多岐にわたっています。



- AI TRiSM製品（例：Fiddler AI / Arize AI）
- AI-SPM製品（例：Palo Alto Prisma Cloud AI-SPM / Wiz）
- AIガバナンス製品（例：OneTrust / Credo AI）
- AIサプライチェーン管理製品 / AI-SBOM製品（例：HiddenLayer / Protect AI）
- DLP製品（例：Microsoft Purview / Zscaler）
- SASE製品（例：Zscaler / Cato Networks）
- GenAI Gateway製品（例：Databricks Unity AI Gateway / Lasso Security）
- アクセス管理製品（例：Microsoft Entra ID / Okta）
- IGA製品（例：Saviynt / SailPoint）

「AI TRiSM製品」は、AIの信頼性や安全性、リスクなどを継続的に評価・監視する製品群で、たとえばFiddler AIやArize AIなどが挙げられます。一方、「AI-SPM製品」は、AIモデルやデータ、関連するインフラ・サービスなどを可視化し、AI特有のセキュリティリスクを管理する製品群で、Palo Alto NetworksのPrisma Cloud AI-SPMやWizなどが提供しています。

導入製品の傾向からは、企業のAIセキュリティ対策においてAIの信頼性やリスク管理に加え、AIを取り巻く環境の安全性に関する対応にも目が向けられていることがうかがえます。

■ セキュリティコンサルタントからのコメント

アルサーガパートナーズ株式会社
コンサルティング本部 シニアマネージャー
石黒 元洋

今回の調査では、約6割の管理層がAI利用ルールを「未整備」と回答し、整備済み・整備意向のある管理層の半数近くが遵守状況を確認する手段を持たないなど、ルールの整備と運用の両面に課題があることが浮き彫りになりました。AIガバナンスの実効性を高めるには、ルールの整備に加え、社員がAIツールの利用に伴うリスクを正しく理解できる環境づくりも欠かせません。

特に現場では「学習機能をオフにしているから個人契約のAIでも安全」と捉えられがちですが、これは大きな誤解です。個人向けと法人向けでは契約内容やセキュリティ構造が根本的に異なります。個人任せの運用では企業側が利用実態や設定を把握・統制できず、SSO（シングルサインオン）非対応による乗っ取りや会話履歴からの情報流出リスクを排除できません。

さらに、学習オフの設定であっても、事業者側の不正検知等の目的でデータが一時保管される場合があり、保管先や期間を把握したコンプライアンス上のリスク評価が不可欠です。今回の調査で明らかになったルールの整備・運用上の課題を踏まえても、社員個人の判断や注意に依存した管理には限界があります。企業は個人ツールの容認から脱却し、一括管理された法人ツールの配備と技術的なガバナンス統制をセットで進めることが急務と言えます。

■ 調査結果まとめ

- 業務での生成**AI**利用率は約**7**割へ。この**1**年で**2**倍以上に拡大
  業務でAIツールを利用している人は67.7%に達し、前年（2025年7月調査）の29.3%から2倍以上になりました。ビジネスシーンにおける生成AIの活用が広がり、日常業務に浸透しつつあります。

- 約**6**割の管理層は自社の**AI**利用ルール「未整備」と回答
  社内のAI利用ルールについて現在未整備と認識されている割合は62.3%にのぼり、「整備・運用済み」の割合は35.2%になりました。生成AIの業務利用が広がる一方で、企業側のルール整備が追いついていない課題が見られます。

- ルール整備の最大の壁は「リソース不足」
  AI利用ルールを整備できていない最大の理由は「人・時間などのリソース不足」であり、ルール整備を継続的に進めるための体制づくりが課題となっています。

- **AI**利用ルールの「整備・運用済み」は**4**割未満も、そのうち**9**割弱が現場への浸透を実感
  自社のAI利用ルール「整備・運用済み（35.2%）」と回答した管理層のうち、86.0%が現場へのルール浸透を実感。整備・運用されたルールは、単なる制度上の取り決めにとどまらず、現場でも一定程度受け入れられていることがうかがえます。

- 半数近くの管理層が、ルールの遵守状況の把握に課題
  AI利用ルールを整備済み、整備意向ありの管理層の46.4%は「ルールが現場で守られているか確認・把握する手段がない」と課題を抱えています。ルールの整備段階から、遵守状況を把握する仕組みなど、実効性を継続的に確保するための運用体制づくりが重要であることが示唆されます。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp

- 約**6**割の社員が「どの**AI**ツールが会社で許可されているか」を十分に把握していない
59.8%の社員が、会社で許可されているAIツールについて十分に把握できていないことがわかりました。こうした認識のずれから、会社が把握・管理していないAIツールが業務で使われる「シャドーAI」のリスクも考えられます。

- セキュリティ管理ツールの未導入は**4**割弱。導入企業では「**AI TRiSM**」と「**AI-SPM**」が上位に
36.4%の管理層は、AIに関するセキュリティ管理ツールを未導入と回答。一方、導入済みの現場では「AI TRiSM製品」と「AI-SPM製品」が多く活用されており、企業はAIの信頼性やリスク管理に加えて、利用環境の安全性を意識していることがうかがえます。

■ 今後の展望

今回の調査では、生成AIの利用が急速に広がる一方で、AI利用ルールの整備や運用に課題を抱える企業の実態が明らかになりました。今後は、生成AIの活用を広げるだけでなく、適切な利用環境を継続的に整えていくことが重要です。ルールの整備状況に加え、現場での運用実態や従業員の理解度にも目を向け、実効性のあるAIガバナンスを構築していくことが求められるでしょう。

アルサーガパートナーズは、データプライバシー・セキュリティ管理の世界的プラットフォームである「OneTrust」のAIガバナンス機能を日本で初導入(*3)した認定パートナーとして、ガイドライン策定や世界初の包括的なAI規制である「EU AI Act」等の海外法規制対応、さらにはゼロトラスト推進までワンストップで提供しています。「攻めの活用」と「守りのガバナンス」を両立し、お客様と同じ目線で走る伴走型支援を推進してまいります。

*3：OneTrustのAIガバナンス機能が日本国内の企業に初めて導入された事例であることを指します。

AIガバナンスの方針策定やガイドライン整備、法規制対応、AIセキュリティ対策など、AIセキュリティ・ガバナンスに関するご相談は随時承っておりますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ
セキュリティ特設サイトはこちら

■アルサーガパートナーズ株式会社 について

アルサーガパートナーズは、東京・渋谷に本社を置く総合DXファームです。コンサルティングからシステム開発、保守・運用まで、DXに必要な機能を自社内で一貫して提供し、業界・業種を問わず企業のDX推進を支援しています。

アルサーガパートナーズ株式会社
東京都渋谷区桜丘町3番2号 渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
URL: https://www.arsaga.jp

国内でのIT人材育成と技術力の内製化にこだわり、九州をはじめとする国内拠点を拡大しながら、日本全国における優秀なIT人材の活躍の場を広げています。

本社　　：東京都渋谷区桜丘町3番2号渋谷サクラステージSAKURAタワー5階
熊本支社
新市街オフィス：熊本県熊本市中央区新市街8番7 TERRACE87ビル2階
平成オフィス　：熊本県熊本市南区江越2丁目24-1
福岡支社　　：福岡県福岡市中央区天神一丁目10番20号 天神ビジネスセンター7階
鹿児島オフィス：鹿児島県鹿児島市武1丁目2-10 JR鹿児島中央ビル710・711
代表者　　：代表取締役CEO兼CTO 小俣泰明
設立日　　：2016年1月
資本金　　：14億3,470万円（資本準備金等を含む）
従業員数　　：399名（2026年10月末時点）
事業内容　　：ワンストップDXソリューション事業
HP　　：https://www.arsaga.jp

■このリリースに関するお問い合わせ

アルサーガパートナーズ株式会社
広報担当：宮崎・渡邉・尹・白石
Email：press@arsaga.jp
直通電話：080-4745-7215（広報直通）